

## シリーズ

## “キラリ企業”の現場から 第16回

当社の支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第16回目は、アサ電子工業（株）（小平市）をご紹介します。同社は、カップリング<sup>（注1）</sup>やスイッチなどの要素部品を企画・開発、生産し、多数の顧客から幅広い支持を受けています。その秘訣を麻幸啓社長にお伺いしました。同社には、公社が主催した「東京ビジネスフェスタ2006」<sup>（注2）</sup>にご出展いただきました。

## アイデアと生産技術で産業界を支える要素部品づくりを目指して

アサ電子工業株式会社

## “モノづくり”にこだわる

アサ電子工業（株）は、昭和49年6月に麻幸啓社長が大手計測器メーカーから独立して設立した企業である。同氏は、独立前の約20数年間は技術者として貴重な経験を数多く重ねた。鉄鋼や化学など大手企業の通信用から工業用計器まで幅広い技術開発に携わってきたが、さらに自由にモノ作りに取り組むことを志し、アサ電子工業を設立した。



麻幸啓社長

## 受注生産から研究開発へ

創業当初は、サーボ装置、工業用秤、各種量産部品の自動検査装置、省力化設備機器や、OEM製品としてセンサー、制御機器等のメカトロニクスに関連する機器の受注生産から始めた。

現在、同社の主力商品となっているカップリングの開発は、結晶性プラスチックが販売されたことをきっかけに開始された。昭和51年には、松下通信工業が製造する測定器のつまみ（スイッチ）と軸を接続するカップリングの開発に成功したことで同社の売上げが大きく伸びることになる。同社が生産するこれらのカップリングは、回転軸を結合するものであり、回転軸が必要とされるあらゆる分野で利用されている。

## 独自の製品開発

現在、同社では、カップリング・軸継手・電磁ブレーキ・ホールICを応用した磁気スイッチなどを生産している。その中でも主力製品はカップリングとスイッチである。これらの要素部品は、単純ではあるが材料や生産などに関して広範な知識がないと開発、生産、販売は難しい。しかし、同社はこれらの製品を次々開発し、商品化に成功した。

カップリングに関しては、平成2年にプラスチックの10倍程度の強度をもつ耐久性カップリングを開発、商品化を行なった。今では小型なものから大型なものまで幅広く取り扱っている。カップリングにはプラスチック、たわみプレート（ハイブリッド）、オルダム、リジット、ボールといったものがあるが、例えば、たわみプレートカップリングは、金属プレートを使用するものが一般的であるのに対し、より使用環境が悪い状態でも利用可能なポリイミドとカーボン繊維を材質として使用している。また、ボールカップリングは、内ハブ、外ハブ、球の三要素からなり、その機能構造について特許を出願中である。これらのカップリングのシェアは国内ナンバーワンと推測される。

また、カップリングと並ぶスイッチの開発は、昭和63年ごろから開始した。同社で取り扱うスイッチは、3種類である。その特徴はそれぞれ、①高感度ホールICを使用した磁気感应型磁気近接スイッチ、②鉄などの磁性体のみを検知し、アルミニウムや非磁性ステンレス等に反応しない近鉄スイッチ、③無接点回路で長期繰返し使用にも安定動作する無接点タッチスイッチで、いずれも自社で開発し、販売している。



同社が企画、開発、生産するカップリング（左）とスイッチ（右）

このように経験と技術力が必要とされる要素部品の生産では、新製品を開発する上で「アイデア」だけではなく、「アイデアを商品化する技術が大切」と社長は言う。そして、従来の市場にはない独創的で付加価値の高い自社製品の研究開発を行っている。

### “東京ビジネスフェスタ2006” 展示会への出展

展示会への出展は、新たな販路開拓に有効であるが、同社の生産、販売している標準的な要素部品の単価は500円から20,000円前後であり、製品1個当たりの単価はそれほど高価ではない。それだけに数多くの企業に同社の製品を認知し、利用してもらうためには、宣伝広告が重要となる。同社は、ホームページでの製品案内のほか、カタログ販売も行っている。それ以外にも宣伝広告の方法としては、各種展示会を活用している。これまでも様々な展示会に参加しているが、昨年度は公社が主催し、都立産業貿易センター浜松町館でおこなわれた「東京ビジネスフェスタ」に出展した。都内の中小企業が持つ優れた製品・技術が一堂に集まったこの展示会に参加することで「これまでにない客層にPRすることができた。」と社長は言う。

### 環境に配慮した経営

同社は、平成18年5月にISO14001を取得した。取得の目的は、省力化機械とその保全サービス、またそれらの機械部品や電気部品を提供する事業を通じて、設計から販売のすべての業務において環境負荷の低減に取り組むことであつた。

社長は、環境問題への関心が強く、機会があればISO14001を取得したいと考えていたが、平成17年に社内体制を再編したことをきっかけに取得した。社長が事務局を兼務し、ISO14001を取得したのは、キックオフからわずか6ヶ月後であつた。

取得にあたっては、同社に関連する法規制を調べるのに苦労したが、原材料のロス減らし、工場内の整理整頓を徹底するなど、現在では全社員で生産、販売する製品を通し環境負荷の低減に取り組んでいる。小さなことの積み重ねだが、このような行動が定着することで、結果的には社員一人ひとりの仕事への意識が高まる効果があつた。



同社の生産を支える熟練技術者

### 技術力と顧客本位を貫いて

同社は、平成元年に中小企業高度化事業（工場共同利用事業）<sup>(注3)</sup>を利用してテクノイト小平ビルに入居した。工場には数台のマシニングセンターを設置し、カップリングの生産を全て内製化している。さらにコスト削減を目指し、昨年11月には横型5軸マシニングセンター（40パレットオートチェンジャー）を導入した。内製化の結果、数十種類ある製品の在庫は2～3週間程度分まで削減されており、効率的な経営が実践され、低コストでの製品の提供が可能となっている。

顧客および従業員のために目先の利益にとらわれない、地に足が着いた堅実な経営を心がけている。今後も高品質、多品種、小ロット等きめ細かな市場ニーズに応え、「使って喜ばれる」要素部品づくりを目指している。

同社が企画、生産、販売する要素部品は決して高額なものではない。多数の顧客から支持を受け、今日まで経営を続けている。多くの顧客から支持を得ている理由の一つは技術力であることは間違いがない。それに加えて、毎月6,000件にも達する注文にたった1個からでも対応するという、顧客を大切にしている姿勢も支持されている秘訣であろう。

（新事業創出課 佐藤豊彦）

（注1）カップリング（継手、ジョイント）とは、「2個の機械部品を接続して一体とするために用いられる部品。種類には軸継手、リベット継手、管継手、ピン継手など多くの種類がある。」（『図解 機械用語辞典—第4版—』日刊工業新聞社、平成17年）同社では、回転継手の企画、開発、生産、販売を行なっている。

（注2）東京都中小企業振興公社の設立40周年を記念しておこなわれたもので、中小企業と新たなビジネスチャンスを求める企業とのマッチングを支援するため、優れた製品・技術を有する都内中小企業が一堂に会した展示商談会。

（注3）高度化事業とは「中小企業の結合体である組合等が行なう集団化、共同化、協業化等の事業に対し、必要な資金を低利かつ長期の条件で助成するものであり、国の中小企業施策の一環として行なわれるもの」（中小企業事業団「高度化指導マニュアル 診断ハンドブック（工業）」平成10年度）

企業名：アサ電子工業株式会社

代表者：麻幸啓 資本金：1,000万円 従業員：26名

本社所在地：東京都小平市小川東町5-16-8 テクノイト小平ビル3F

T E L : 042-341-8551 F A X : 042-341-8826

U R L : <http://www.asadenshi.co.jp/>